

報道関係者各位

## 会社員の6割「AIに仕事を奪われない」と予想

### 高プロ vs 一般職 年収差で意識に違い

人材紹介会社 ロバート・ウォルターズ、  
外資系・日系グローバル企業で働く会社員を対象に「AI 脅威論」への考えを徹底調査

専門スキルと英語力を備えたグローバル人材の転職を支援する人材紹介会社のロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：デイビッド・スワン）は11月28日、英語力と専門スキルを活かし国内の第一線で活躍する会社員から「AI 脅威論」への考えを聞いたアンケート調査の結果を発表しました。

#### 会社員の6割、自分の仕事は「AIに奪われない」と予想

外資系企業、グローバル展開の進む国内大手企業で働くバイリンガル人材を対象とした当アンケート調査に回答を寄せた293人の会社員のうち、61%が「自分の仕事がAIに奪われる時が来ると思うか？」の問いに「いいえ」と回答しました。

#### 上司層・高プロ vs 若手層・一般職 年収差にも見られる意識の違い

年収別に比較すると、高プロとも呼ばれる年収1,000万円以上の会社員では「いいえ」が73%に上った一方で、若手層・一般職人材など年収450万円未満の会社員では「はい」の割合が54%と過半数に達しました。専門スキル・経験値が豊富な上司層・高プロ人材は、AI・熟練した専門人材それぞれの得意・不得意への理解も深いことから漠然とした不安感の蔓延には至っていないものと考えられます。

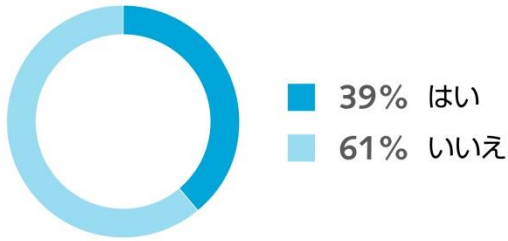
#### 危機感を抱く会社員：98%が「スキルアップで克服したい」 人気は課題発見・解決能力と経営スキル

「AIに自分の仕事が奪われる時が来ると思う」と答えた回答者（全体の39%）が取り組みたいと答えた対策では、「何もしない」（2%）、「ハードスキルを学びなおす」（10%）、「足りない資質・ソフトスキルを磨く」（27%）への支持を「その両方に取り組む」（55%）への支持が大きく上回りました。磨きたい資質・ソフトスキルは1位「課題発見・解決能力」（33.7%）、2位「創造力」（28.9%）、3位「コミュニケーションスキル・交渉力」（26.5%）。学びなおしたいスキルは1位「経営」（32.1%）、2位「情報・データ分析」（26.9%）、3位「マーケティング」（17.9%）でした。「AIに仕事を奪われる」脅威を感じている会社員（39%）の間でも、AIが不得意とする部分、人間の能力が高い価値を供給できる部分を自ら見つけ、スキルアップしようという能動的な姿勢がうかがえる結果となりました。

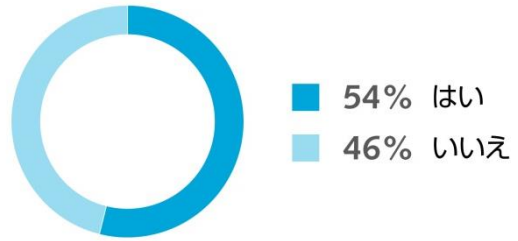
調査期間：2017年10月23日～10月30日

調査対象：当社登録者 回答者数：n=293人

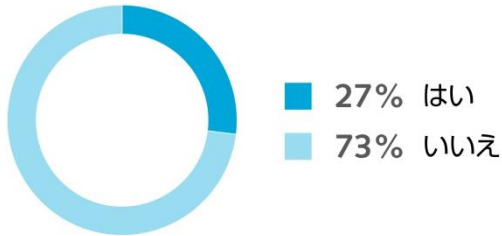
### あなたの仕事、AI・ロボットに奪われると思う？



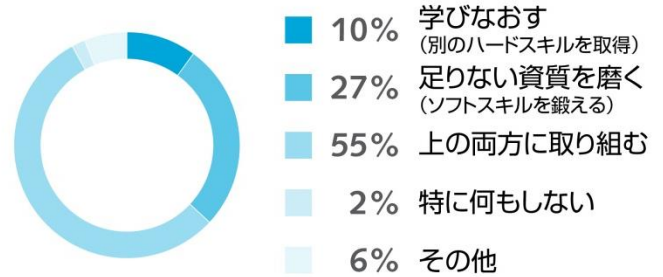
### あなたの仕事、AI・ロボットに奪われると思う？ (年収別：450万円未満)



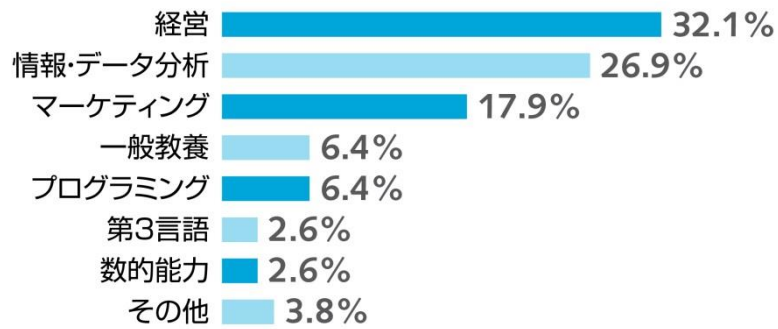
### あなたの仕事、AI・ロボットに奪われると思う？ (年収別：1,000万円≧1,500万円)



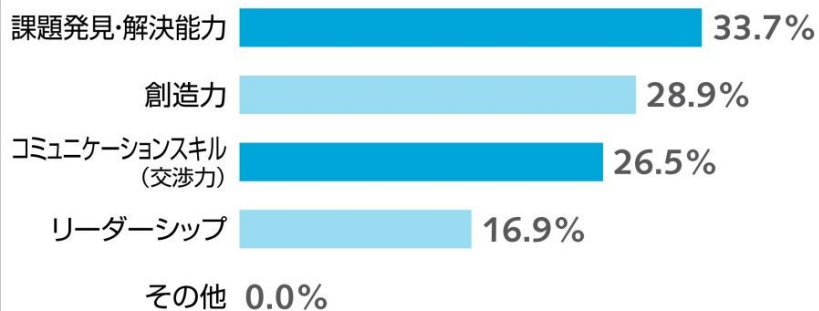
### どんな対策をとりますか？



### 学びたいハードスキルは？



### 磨きたい資質・ソフトスキルは？



**ロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社について** (<https://www.robertwalters.co.jp/>)

ロバート・ウォルターズは1985年に英国・ロンドンで設立され、世界28カ国の主要都市に拠点を持つ、スペシャリストのためのグローバル人材紹介会社です。ロバート・ウォルターズ・ジャパンは同社の日本オフィスで、バイリンガル人材に特化しています。2000年に東京オフィスを、2007年には大阪オフィスを開設。グローバル企業、日系企業とともに世界有数のトップ企業から新規参入企業、中小企業に至るまで、多岐に渡る業種・職種、正社員および派遣・契約社員と幅広い採用ニーズに応えた人材紹介をおこなっています。ラグビー日本代表のオフィシャルスポンサー、各種NPOの支援など、日本社会への貢献にも積極的に取り組んでいます。

<本件に関するお問い合わせ先>

ロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社 広報

TEL : 03-4570-1500